

【機密】 転送や公開は行わないでください。

あくまでセミナーいち受講者のメモなので、内容の正しさを保障するものではありません。この資料の共有リンクは数週間後に削除されますのでご了承ください。

＜開催日・場所＞

201x年xx月xx日（水） 14時から17時まで

場所:ビービットセミナールーム

＜題名＞

第1部「ここにセミナー題名が入ります」

＜講演者＞

株式会社XXXX データアナリスト A 氏

データ分析チームについて

今回のプレゼンについて

- ・ベストプラクティスではありません
- ・新しい情報はありません
- ・情報の出し惜しみはない

チームのミッションとは

- ・分析部署＝BIチーム
- ・意思決定力のMAX化
- 意思決定の支援に関わることを優先する
- データを受かった「何か」がミッションではない

古代の理容師タイプのミッション

- ・昔 理容師 ニアリーイコール 外科医
- 出来ることベースで仕事が認識される

人の命を救うタイプのミッション

- ・何を提供するかベース
- ・出来ることではなく必要なこと

意思決定を必要とする場面

- ・事業/経営 プロジェクト 施策 など

・羅針盤

→行動の革命力

→組織が進むべき方向性を示す

・活版印刷

→情報流出の民主化

昔は聖書をもつ教会に権力が集中していた

→分析治験の貯蓄、公開

→SQLの使い方を普及

・火薬

【機密】 転送や公開は行わないでください。

あくまでセミナーいち受講者のメモなので、内容の正しさを保障するものではありません。この資料の共有リンクは数週間後に削除されますのでご了承ください。

→武力のルールチェンジ
昔は兵隊の数が武力だった

→新しい競争優位性のための武器
→機械学習を推進している

分析チームが行っていること

- ・グロースストラテジーからユーザーの行動まで幅広く行っている
- ・PDCAの中江チェック、アクション、プランに深く関わっている
 - ・プラン 事業の注力KGI

- ・チェック&アクション
 - 結果の測定と施策の結果に応じて改善

・組織について

→組織頭上は横断型組織として存在するが、実態はプロジェクト組織の一員
→思想としては事業部(プロジェクト)のメリットを優先

・チームとしての活動

→チームが一緒にいるのは週に2h+
→大半はプロジェクトメンバーとして活動

・プロジェクト張り付きスタイルのメリット、デメリット

メリット

→スピード
→ドメイン知識・状況把握
→一体感

デメリット

→スキル開発・ナレッジシェア
→評価・育成

PDCAがとても速いため分析ニーズごとに案件を組むスタイルでは遅く、対応できない。スピード、ドメイン知識、一体感>スキル

チームとして活動すべきだと思うこと

・人事評価

→マネージャーがプロジェクト担当者にヒアリングすることで対応出来る

・採用基準:標準化

・社内の分析レベルの向上

→Query Recipe

- ・過去の分析クエリと貯蔵・公開

→プロジェクト「ゆるふわBI」(ゆB): 人類総BI化計画

- ・分析に興味のあるメンバーを部署の垣根を越えて結集
- ・データ関連の新規取り組みのβテスター

【機密】 転送や公開は行わないでください。
あくまでセミナーいち受講者のメモなので、内容の正しさを保障するものではありません。この資料の共有リンクは数週間後に削除されますのでご了承ください。

横断組織の色合いは薄い、最低限のチームとしての活動はする。

優秀なアナリストのファクター: 勇者型アナリスト

- ・論理力+説得できる伝達力+必要な情報を集めるフットワーク: 俊敏性+コーディング等の技術+信用できるオーラ
- ・一人で垂直統合的にフローを完結させることが求められる: アナリスト一人で事業に入れているので、垂直型で出来る人を求めている

採用について

- ・マネージャーとして最も注力している
- ・選考基準、フローのリファイン
- ・応募数を増やす

採用基準

- ・採用基準はアリストテレスを参考にしている: 3つのポイントをオールグリーンかをチェックしている。
- ・パトス: 情熱 熱意を持って仕事してくれるか
- ・エトス: 人間性 信頼される人間性か
- ・ロゴス: 論理性 他人を説得できる論理性があるか
- ・これらを先天性、後天性に分け6象限で判断

まとめ

- ・アナリスト

質問

- ・モバイルのアプリケーションの分析改善はどうしているか
→ 基本的にお客様分けは4つだけ
→ CRM的にロイヤルユーザーは登録してから30日以内のユーザーを2種: 買い取りのみ。OR出品もする。
→ シンプルに落とし込むことが大切: サステナビリティと現場の腹落ち感を優先させる。(運用を含め)
→ 細かくやりすぎると運用が苦しい。例 種別毎に文言を変更したり

・機械学習

→ MLチームは社内のどこにオポチュニティがあるかを見つけない。なのでBIチームは事業のことを理解しているため、どこにMLを使うニーズがあるかなどで協働している。

・採用について 途中で採用してからはどういうステップで仕事に取り組むのか?

→ 2週間くらいでプロジェクトにコミットしてもらう